

人として魅力的であること

失敗は敗北ではない。また、試合に負けたとしても、それは失敗ではない。同じ理由で、成功は勝利ではないし、試合に勝つことが成功と同じ意味を持つわけではない。

試合での勝利を、相手を打ちのめすこと、相手を優越することと考える愚か者がいる。彼は、同じ思考パターンによって、たった一度の敗北で、簡単に打ちのめされてしまう。だって、彼にとって勝敗は、打ちのめすか、打ちのめされるかの違いでしかないのだから。この思考パターンに陥った愚か者は、一つの成功によって、相手より優越していると勘違いする。同様に、一つの失敗によって自分を責め、誇りを^{おとし}貶め、自ら不愉快になるのだ。

ところで聞くが、お前は何のためにテニスをしているのか。時々立ち止まって考えてみる必要がある。以前、同じ質問に「テニスをしているときの自分はけっこう好きだから」と答えた女子部員がいたが、彼女はテニスをする意味を十分に理解していたに違いない。少なくとも彼女は、試合中や練習中に^{いら}苛ついたり、不愉快な態度を見せたことはなかった。仮に彼女が一つのミスによって不愉快になるようなプレーヤーなら、テニスをしているときの自分は嫌いであるに違いないし、それだと彼女は、テニスをする意味さえ無くしてしまうのだ。そんな彼女を見ながら、テニスをする目的とは「人として魅力的であること」かもしれないと思ったものである。

プレーは、ひとつのボールに対して体を動かし、ラケットを振った結果としての出来事だ。その事実をデータとして頭と体にインプットし、次のプレーに備えるだけで、反省の必要さえないのだ。結果が良かったからといって、相手を打ちのめしたことはないし、優越したことにもならない。結果が悪かったからといって、自分がダメなのでもないし、打ちのめされることもない。ましてや「ナニやってんだよ」と自分を責める必要など全くないのだ。だって、次はもっとうまくやれるに決まっているのだから。いつもお前を失敗に導く張本人こそ、「ナニやってんだよ」と自分を責め立て、テニスをしているときの自分まで嫌いにしていまいかねない誤ったメンタリティなのだ。

テニスは失敗のスポーツである。失敗は何度でも許される。失敗を重ねることによって次の成功が用意されることだってある。どんなに細心の注意を払い、集中したとしても、イメージとは異なる「失敗」が必ず訪れるのだ。そのたびに自分を責め、不愉快になっていては、成功など決しておぼつかないじゃないか。

結果を恐れてはならない。失敗を怖がってはならない。そして、人として魅力的であれ。それが、勝利と成功への近道である。